

十勝の金融経済概況

1. 全体感

十勝の景気は、新型コロナウイルス感染症の影響から、厳しい状態にある。

すなわち、公共投資は、高めの水準で推移している。設備投資は、高水準で推移しているものの、弱めの動きがみられ始めている。住宅投資は、減少している。個人消費は、減少している。生産は、持ち直している。雇用情勢をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱めの動きがみられている。

先行きについては、新型コロナウイルス感染症が管内の経済活動全般に及ぼす影響などを注視していく必要がある。

2. 最終需要の動向

公共投資は、高めの水準で推移している。

5月の公共工事請負金額は、2か月連続で前年を下回った。

設備投資は、高水準で推移しているものの、弱めの動きがみられ始めている。

主要企業の設備投資計画をみると、19年度は前年を下回る計画となっている一方、20年度は前年を上回る計画となっている。ただし、足もとでは、新型コロナウイルス感染症による需要の減少、不確実性の高まりを受けて、投資を縮小、延期するなどの動きがみられ始めている。

住宅投資は、減少している。

4月の新設住宅着工戸数は、持家、貸家ともに前年を下回り、全体でも前年を下回った。

個人消費は、減少している。

4月の主要小売店の売上高は、食料品が引き続き堅調であった一方、衣料品、身の回り品が前年を下回り、全体では前年を下回った。

耐久消費財をみると、自動車販売（乗用車新車登録届出台数、5月）は、普通・小型乗用車、軽乗用車ともに前年を下回り、全体でも8か月連続で前年を下回った。4月の家電販売は、テレビ、白物家電が振るわなかった一方、季節性

商品やパソコンの売れ行きは堅調であった。

旅行・観光関連をみると、4月の市内ホテルの宿泊人数および主要温泉地の宿泊人数は、新型コロナウイルス感染症の影響による宿泊需要の落ち込み、一部施設における臨時休業の実施を背景に、前年を大幅に下回った。また、4月のとちぎ帯広空港の乗降客数も、同感染症の影響による旅客数の減少および減便数の拡大により、前年を大幅に下回った。

3. 生産・雇用・企業倒産の動向

生産は、持ち直している。

4月の生乳生産量は、19か月連続で前年を上回った一方、4月の乳製品生産量は、8か月振りに前年を下回った。農作物の生育状況（6月15日現在）をみると、降水量が平年を下回る一方、平均気温および日照時間が平年を上回って推移したことなどを背景に、各作物とも概ね順調に生育している。

4月の製材品生産量は、前年を下回った。

雇用情勢をみると、新型コロナウイルス感染症の影響により、弱めの動きがみられている。

4月の有効求人倍率（常用）は、2か月連続で前年を下回った。

企業倒産は、総じて低水準で推移している。

5月の企業倒産（負債額10百万円以上）は、皆無であった。

4. 金融情勢

帯広市内金融機関の実質預金残高（4月末）は、流動性預金を中心に増加している。

貸出残高（4月末）は、前年を上回った。

貸出約定平均金利（4月末、総合）は、銀行、信金ともに前月を上回った。

以 上